

産業日本語研究会・活動報告 ライティング分科会

2023年度 活動報告

ライティング分科会委員

委員	石崎 俊
委員	猪野真理枝
委員	烏 日哲
委員 (主査)	佐野 洋
委員	浜口 宗武
委員	西出 隆二
委員	塩澤 如正
委員 (事務局)	荻野 孝野
事務局	三橋 朋晴
事務局	埴 金治
事務局	三吉 秀夫

会議開催

	開催日
第1回	7月25日
第2回	8月25日
第3回	9月28日
第4回	11月17日
第5回	1月19日

活動目標

- 目標
 - 「書き方読本」 ■ 対象はビジネス文書
 - 読み手の行動変容につながる文書の書き方
- 書き方の趣意
 - 書く行為の際の思考様式の気付きと理解
(文章構成論や段落論でない)
 - 語り方 (知識-思考-意思決定) の把握と, その特徴の理解
- 成果目標
 - 書き方マニュアル (冊子)

趣意

- 思考様式の気付きと理解
 - 母語への気付き（無意識の意識化）と，母語表現を外国語として取り扱う能力の涵養
- 特徴
 - 行動変容につながる信念の変え方（書き方）を使い分ける（**説得型**と**共感型**） (2018年)
 - 信念を変える手段 ▣ 知識-思考-意志決定
- 「知識-推論-意志決定」
 - 実在概念，合理的推論，判断の仕方
(**位置変化**と**質変化**/ ? / **説得型**と**共感型**)

(2020年)

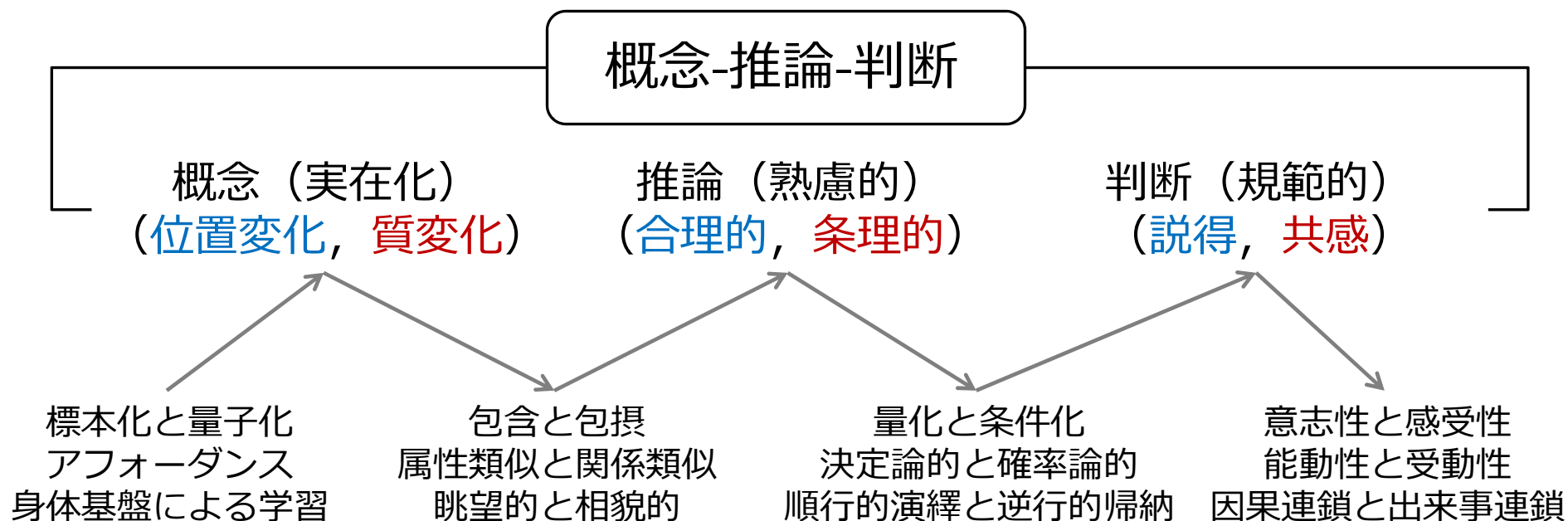
推論の仕方の検討

- 推論の手続き（議論の技術、事物の対立）
 - 末木剛博, 『日本思想考究』*を参照して検討
 - 三浦梅園/『玄語』の条理と, フリードリッヒ・ヘーゲル/『弁証法』の論理
 - 条理：相反する主張（命題）の併存的相互依存的な関係であり、相互肯定的。一方が相互に相手の必要条件となる。（非目的論的で非過程的）
 - 論理：相反する主張（命題）の相互否定的な関係であり、対立的闘争的な関係。一方が立てば他方は立たない。（目的論的で過程的）

* 末木剛博「日本思想考究 論理と構造」, 春秋社, 2015 : 第三章を参照

知識-思考-意志決定

「概念-推論-判断」



集団的な識別を通じて共有された客観と
規範的な期待に沿う規範的な自制を通じた思考*



* シモーナ・ギンズバーグ, エヴァ・ヤブロンカ, 鈴木大地訳「動物意識の誕生 (下)」, 勁草書房, 2021 : 295頁を参照

世界は事物で
できている

形姿, 外形, 幾何

内実, 役割, 機能,

世界は関係で
できている



位置変化：水滴の
飛散

質変化：水面から
水滴

Created using generative AI

筋書の型と論旨展開

段作文の型	説得型		共感型	
納得の手段	米国型	欧州型	日本型1	日本型2
筋書の型	起承結	起承転結	起承転結	起承転
意見の形成過程	立証の過程は主張のみを支持する	立証の過程を通じて折り合える点を示す	立証の過程を通じて主張を受容させる	立証の過程を通じて潜在する目的を探る
目的の有無	結論に明示する	結論に明示する	結論に明示する	結論に明示しない
問題解決の型	直接解決型	解決型	解消型	開放型
世界観 (可知的全体)	一つ (決定論的)	二つ (全体/部分, 準決定論的)	一つ (状況依存, 条件付き確率的)	不明 (条件付き確率論的)

推論・類推と段作文

標本化, 量子化	空間分解, 不動点		時間分解, 不変点	
因果観	数量化 (数えられる物が在り, 物どうしに関係が認められる)		関係化 (認識できる関係が在り, 関係の下で物が認められる)	
論理的な根拠	矛盾律 (演繹推論)		排中律 (帰納推論)	
確からしさ	偶然に依拠する概念/考え方		認識に関する概念/考え方	
段作文の型	説得型		共感型	
納得の手段	米国型	欧州型	日本型1	日本型2
筋書の型	起承結	起承転結	起承転結	起承転
推論・類推	演繹的	仮説演繹的	帰納的 (類推)	帰納的 (遡及推論)
確からしさの計算	頻度	論理的可能性	傾向性	主観的信念強度
信念の拠り所	唯物と意志性	唯物	唯識と感受性	唯識

叙述特徴と段作文

段作文の型	説得型		共感型	
立場の顕在化	主語		主題	
立場の構成	形姿 + 意志（行使力） + 視知覚		内実 + 感受（受容力） + 情感	
立証の意味	原因・理由から結果に至る因果連鎖を辿る運動としての思考行為		原因・理由から結果に至る因果連鎖を複数提示する判断としての思考行為	
立証の叙述	目的を持った意志であり，結果に繋がる経路を，位置変化（運動）表現を通じて明らかにする		可能世界を想起する感受であり，結果に繋がる可能性を，質変化（状態）表現を通じて明らかにする	
立証の主表現	量化表現 – 主語と他動詞，接続詞		関係表現 – 主題と自動詞，条件節	
納得の手段	米国型	欧州型	日本型1	日本型2
筋書の型	起承結	起承転結	起承転結	起承転

ありがとうございました。

- 書き方読本（試作版）
2022年度・成果報告書
- 書き方読本（考え方－試作版）
2023年度・成果報告書（予定）